第25回　全国山城サミット安来大会が開催されます

全国の山城が存在する市町村や山城ファンが一堂に集まる全国山城サミット。今年9月に、米子城とも歴史的につながりの深い安来市・月山富田城と安来市総合文化ホール【アルテピア】を会場に開催されます。
9月23日（日）には第7回戦国尼子フェスティバルも同時開催。

9月23日（日）

●史跡見学会

■月山富田城コース（参加費無料）
参加者をグループ分けします。二つの区分から選んでお申し込みください。
1　正午～午後１時までの出発
2　午後1時10分～２時までの出発
▶募集人数　150人

■京羅木山、勝山コース
（健脚向き、参加費 2,000円）
時間　午前９時～午後３時
▶募集人数　20人

9月24日（月・振休）　午前10時～午後4時

●サミット　定員：1,000人、参加費無料
■会　　場　安来市総合文化ホール　アルテピア

▶基調講演
「月山富田城の魅力と楽しみ方」
講師：小和田哲男さん
（日本城郭協会理事長）

▶講演１『山城の楽しみ方（観光編）』
講師：萩原さちこさん
（城郭ライター）

▶講演２『山城の楽しみ方（遺跡編）』
講師：中井均さん
（滋賀県立大学教授）

▶松村邦洋トークショー
▶パネルディスカッション
▶山城交流ブース（全国山城紹介、特産品販売など）

●史跡見学会
■月山富田城コース（参加費無料）
時間　午後5時～6時30分
▶募集人数　60人

■申込方法　両日とも史跡見学会とサミットはお申込みが必要です。次の申込先に申込用紙（チラシ）をお持ちいただくか、ＦＡＸ、ホームページ（https://www.gassantodajo.com）によりお申し込みください。なお、見学会は定員を超えた場合は抽選（申込期限：7月31日）で、サミットは先着順となります。
■チラシ設置場所　米子市：米子市役所文化振興課・山陰歴史館・上淀白鳳の丘展示館・米子まちなか観光案内所
安来市：各庁舎、各交流センターなど
■申込先　安来市文化財課（広瀬庁舎２階）、商工観光課（安来庁舎２階）、伯太地域センター（伯太庁舎１階）
■ FAX 送信先　安来市文化財課（FAX０８５４－２３－３２８２）
くわしくはチラシ、ホームページをご確認ください。
■問合せ　安来市文化財課（☎０８５４－２３－３２４０、FAX０８５４－２３－３２８２）

米子の文化財

第１回　「歴史が活きる近代建築」　― 東光園本館「天台」―

東光園は皆生温泉に所在する温泉旅館です。平成29年（2017年）10月27日に東光園の本館「天台」が国の登録有形文化財に登録されました。

「天台」は菊竹清訓氏（1928－2011）によって設計デザインされ 1964 年に竣工しました。菊竹氏は、昭和30年代に「メタボリズム」という建築思想を構想し、日本の近代建築に大きな影響を与えた日本を代表する建築家で、日本建築学会賞や旭日中綬章などを受賞しています。「メタボリズム」は、新陳代謝を可能とする建築（社会の変化に対応できることを前提とした設計）の考え方です。

菊竹氏の代表作には「天台」以外にも出雲大社の「庁の舎」（1963）、「エキスポタワー」（1969）、「アクアポリス」（1975）、「江戸東京博物館」（1992）、「島根県立美術館」（1998）、「九州国立博物館」（2004）などがあります。

天台正面（金澤雄記氏提供）

「天台」は鉄筋コンクリート造で地下１階、地上７階の建造物です。

１階と４階に「ピロティ」を持っていることが最大の特徴です。「ピロティ」は壁を取り除き、建物と外が明確に分かれていない状態を作り出す建築構造のことで、通常の建築では１階にのみ見られますが、「ピロティ」が１階だけでなく、４階でも見られ、５階、６階が吊り下げられた構造の「天台」は「最初で最後の2段ピロティ」などと呼ばれています。

天台４階ピロティ（金澤雄記氏提供）

外観は、出雲大社の屋根や厳島神社の鳥居の構造をモチーフに取り込んだといわれていることも特徴的です。近代建築の材料で日本の木造建築の伝統が表現されていることや建築に独特な技術が用いられていることなどが評価され、国の登録有形文化財に登録されました。

東光園は現在も温泉旅館として営業していますので、ゆったりと温泉に浸かりながら歴史的建造物を見学してみてはいかがでしょうか。

■問合せ　文化振興課
（☎２３－５４３８、FAX２３－５４１４）

教えて！米子城

第36回

米子城の竪堀を発見！その1

バックナンバーがPDF ファイルでご覧いただけます。

同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**が米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、平成29年度に行なわれた米子城の発掘調査の成果について、調査を担当したハマノ学芸員を交えて学びます。

かるちゃん：先月行なわれた**「史跡米子城跡発掘調査現地説明会」**、二人とも行ったよね。最新の発掘調査成果はどうだったかな？

ジローくん：米子城に**「竪堀（たてぼり）」**があったなんてびっくりだよ！

ミナちゃん：今回の説明会では実際に竪堀を歩くことができたので、その迫力が実感できたわね。160人も参加者がいて大盛況だった。

かるちゃん：平成28年度の調査では本丸北側の遠見櫓（とおみやぐら）から北西の内膳丸に向かって連なる**登り石垣**の存在が明らかになった。そして今回確認されたのが竪堀だ。発掘調査を担当しているハマノ学芸員に来てもらっているので、話を聞いてみよう。

ハマノさん：こんにちは。皆さんお久しぶりです。現地説明会にもお越しいただきありがとうございます。米子城跡の竪堀、いかがでしたか？じつは竪堀というのは、中世の山城によく用いられた防御施設なんです。近世のお城で堀っていうと、お城の周りに水などを張って巡らせた水堀がイメージされると思いますが、この竪堀は斜面を登るように掘られた空堀で、敵の横方向の斜面移動を遮断するための防御施設なんです。

ジローくん：斜面を登るので、お城に対して縦（竪）ってことなんだね。確かに、あれじゃあ敵が尾根を横切って城の手薄なところを突こうと思っても簡単には越えられないよね。

ハマノさん：今回確認された竪堀は本丸番所跡から、二の丸枡形に向かって北東方向に直線的に63m伸びています。堀の幅は13m、深さは北壁側で約6mもあるんですよ。しかも、この竪堀は番所の下の**「切岸（きりぎし）」**という人工的な崖に繋がっているので、なんとか斜面を登ってきた敵もこの番所の下に誘い込まれて一網打尽というわけです。湊山の地形を生かした巧妙なつくりですよね。

かるちゃん：で、この竪堀とセットになっていたのが、昨年確認された北西側の登り石垣というわけだね。この左右2つの防御施設で、城主の御殿がある二の丸を守っていたというわけだ。

竪堀全景

竪堀から見上げる米子城本丸

竪堀の高低差

ミナちゃん：登り石垣は、豊臣秀吉の朝鮮出兵時に朝鮮半島の**「倭城（わじょう）」**建設に用いられた当時の最先端技術よね。それと中世以来の伝統的な防御施設である竪堀をセットで使うなんて、すごい工夫ね。

ハマノさん：さらに今回の調査では、竪堀の構造がわかったほか、出土遺物からも大きな発見があったんですよ。

ミナちゃん、ジローくん：そうなんだ～。もっとくわしく知りたいなあ。教えてハマノさん！

毎年新たな発見がある米子城跡、発掘調査成果のお話は次回に続きます。お楽しみに！

（米子市文化振興課）